

## DX化推進概要

### 建設業界を変えるDX化への挑戦！！

#### <自社の概要>

#### 社長のご挨拶

弊社は、福岡県北九州市小倉北区に平成20年4月に土木施工管理の技術者を派遣する会社として、株式会社ケントクを創業し、平成26年8月に本社を小倉南区に移転、現在に至っています。

創業以来、建設業・電気工事業・防水工事業・解体工事業の許可を取得、測量業・派遣業の登録をしており当初は、公共機関の国土交通省・福岡北九州高速道路公社を主として派遣、工事の出来形、品質、安全、工程、竣工図書作成補助の施工管理業務を行っていましたが、現在は10年前より太陽光建設工事業へ参入し、土木造成工事、設備工事、電気工事を一貫して行えるまでに成長致しました。

弊社従業員の多くが資格を有している為、申請から変更、造成工事、設備工事、電気工事までのトータル施工ができ、見積もり依頼も多く工事実績を重ねています。

今建設業界では、作業員の高齢化と労働力不足、進まない事業継承、多くの図面情報を扱う煩雑さ、人力作業に頼る建設現場、老朽化が進むインフラとの闘いなど、多くの課題を抱えている中で、弊社も「人員不足」が、大きな課題となっております。

次世代に引き継ぐ若者が入社して来ない、入社しても仕事を覚えた頃に辞めてしまい、人材が長続きしないのが現状となっております。

これから建設業界でもICT化が進む中で、弊社はITの技術を積極的に導入・活用し、熟練の作業員でなくても同等の作業を誰でも行える様に目指し、業務の効率化を図り人員不足の解消と生産性の向上をはかり、働きやすい職場を目指し発展して行く為に、DX化への挑戦をいたします。

2022年11月18日

株式会社ケントク

代表取締役 関 洋幸

#### ◆企業経営の方向性

弊社の指針として「社会から信頼され、他人に誠を尽くすことが〈徳〉であり、そうした〈徳〉を備えた人の集団である企業にしたい」としたうえで、現状に甘んずることなく、チャレンジ精神を大切にしています。

#### ◆情報処理技術の活用の方向性

重機のAI化を推進するなど、先進的な設備投資に積極的に取り組み、施工レベルの均一化を図るとともに、危険作業のリスクを軽減するとともに、人手不足の解消にも対応することができ、従業員の負担を軽減させる事で働きやすい環境を整えます。

ビジョンを実現するために、DX推進に伴うマイルストーンを作成しています。

#### <マイルストーン>

※DX初期段階／2022年5月～2023年6月

- ・全体設計、仕様決定、人材確保、先進的な他社に追従、ツールの選定・導入、ドローン自社飛行&工事適用、コスト最適視点での業務見直し

※DX中期段階／2023年7月～2025年12月

- ・市場優位性の発現、人材確保、最適コスト把握の為のデータ収集及び最適化

※DX改善期／2026年1月～

- ・7D化への変革

#### ◆企業経営及び具体的な方策（戦略）

建設業界が抱える課題「人手不足の深刻化、利益率の低迷、業務効率化が進まない」を解消する為、積極的に最新技術を導入・DX化し、「労務時間の短縮、労働環境の改善、業務効率化により収益性の向上」に挑戦します。

また、作業員の健康管理及び安全管理をシステム化する為の取り組みとして、北九州市主催「メーカーズプロジェクト」に採択され、現在開発を進めています。

〈DX推進に伴う時間軸マップ〉

目標：基本的な環境整備

(課題) 職場、現場事務所のデジタル環境の整備

(ツール) PC、スマホ、タブレット、Wi-Fi、健康管理

目標：工事情報のデジタル化

(課題) 情報の一元化、図面・記録のデジタル化、業務のデジタル化、労務情報のデジタル化

(ツール) クラウド、施工管理アプリ、勤怠管理ソフト

目標：施工の一部デジタル化

(課題) 情報共有、発注と請求のデジタル化

(ツール) ドローン測量、360°カメラ、ICT重機

目標：施工のデジタル化

(課題) 設計から施工、維持管理業務までデジタル化

(ツール) ICT、CIM、AR、VR、MR

目標：全体のデジタル化

(課題) 無人化、自動化

(ツール) AI、ロボット

#### ◆DX推進体制

社長直下に「DX推進部門」を設置し、外部コンサルタントと連携を進め、積極的に情報の収集と検証を行いながら、取り組むこととする。

- ・プロジェクトオーナー：代表取締役 関 洋幸
- ・プロジェクトチーム DX推進室：藤原 二三子
- ・プロジェクトアドバイザー：イジゲングループ株式会社 池 尚大

#### ◆デジタル人材の育成・確保

D Xを推進する組織体制の構築と人材の育成に取り組み、ITスペシャリストの育成を図ります。

##### ※組織改革・人材戦略

- ・デジタル化前提の組織体制へ移行
- ・協力会社との連携体制の構築
- ・多様な人材が活躍できる環境整備

##### ※人材育成

- ・D X構築人材やD X推進人材の育成
- ・情報リテラシー教育の推進
- ・リカレント・リスキリング教育を充実

#### ◆環境整備の具体的方策

- 1：弊社は、経営ビジョンに沿ったD Xに挑戦するため、デジタルにおける環境整備を推進して機器類を導入する。
- 2：機器類を導入後、技術者を中心に研修を行い熟練経験者や経験者でなくても作業可能にする。

#### ◆D X推進管理体制

環境整備の取組み事項と3年後の目標値

##### 1：業務デジタル化 3件

- ・業務のデジタル化・可視化によるオペレーションの削減

##### 2：情報リテラシー教育 10回

- ・階層、職種、部署での情報リテラシー研修の開催及び、外部への研修参加

## 情報セキュリティ基本方針

株式会社ケントク（以下、当社）は、当社における全ての情報資産に対する機密性、完全性及び可用性を確保する事を目的とし、情報資産の安全性・信頼性を担保することが責務であることを改めて自覚し、以下の方針に基づき全社で情報セキュリティに取り組みます。

### 1. 適用範囲

#### 1-1 場所の範囲

当社の敷地内、当社の工事現場、専用通信回線で結ばれた範囲、当社の電気通信用電装設備、その他当社の情報を取り扱うことを主たる目的とする物的設備の範囲とする。

#### 1-2 人的範囲

- (1) 当社の取締役、従業員等、当社と雇用契約関係を持つ者（以下「当社従業員」という）を対象とする。
- (2) 当社が外部事業者等の中で業務契約などを締結し、当社の保有情報を使用した業務を行わせる場合、別途定める「業務委託契約書」に本方針を遵守することを明記し契約を取り交わす。
- (3) 雇用契約関係及び業務契約関係が終了した者においても、「秘密保持契約に関する誓約書」をその者との間で取り交わすなどして、本方針の対象とする。

### 2. 運営責任者

当社内における情報セキュリティを促進するため、経営者主導で組織的かつ継続的に次のことを行う。

- (1) 情報資産が重大な脅威にさらされていることを示す変化の監視
- (2) 情報セキュリティの事件・事故の見直し及び監視
- (3) 情報セキュリティを強化するための主要な発議の承認
- (4) 本方針の遵守の励行および違反に対する措置

### 3. 情報セキュリティ対策

情報資産に対する各種脅威（ウイルスや悪意あるソフトウェアなど）から情報資産を保護するために、次あげる情報セキュリティ対策を実施するものとする。

### 3-1 保有情報の分類と管理

情報システムの利用者が適正に情報システムを運用するため、管理方法の対策を講じる。これにより権限を持たない者による不正な情報システムの運用やアクセスを防止する。

### 3-2 人的セキュリティ

当社従業員に本方針および関係法令の内容を周知徹底する等、十分な教育および啓発が行われるよう必要な対策を講じる。

また、業務委託するにあたり、委託業者による不正な情報資産の取り扱いを防止するための対策を講じる。

### 3-3 運用におけるセキュリティ対策

緊急時に迅速かつ適切な対応を可能とするための危機管理および情報セキュリティ対策の遵守状況を確認するための運用面の対策を講じる。

### 3-4 ウイルス及び悪意あるソフトウェアの予防及び検出

情報システムに対するウイルスや悪意あるソフトウェアなどの侵入を防止し、検出するため情報システムに予防の処置を講じることとし、さらに利用者には危険を知らせることを行う。

## 4. 違反及び事件・事故の報告義務

情報システムに携わるすべての者は、情報セキュリティの事件・事故及び法令違反、約違反があった場合には適切に対処し、再発防止に努める。

## 5. 従業員の取組み

当社の従業員は、情報セキュリティのために必要とされる知識、技術を習得し、情報セキュリティへの取組みを確かなものにする。

2022年 8月 1日  
株式会社ケントク  
代表取締役 関 洋幸